

DOYOU

さいたま

同友会3つの目的 / 良い会社 良い経営者 良い経営環境をめざす



(有)ぐっとリフォーム(中部地区会)

満生 剛

MITSUIKI GO

東大宮駅付近を南北に延びる県道5号線(第二産業道路)の途中に趣のある建物と共にぐっと際立つ大きな看板が目につきます。

(有)ぐっとリフォームの設立は2001年9月。起業して10年経つ頃には、会社の縮小すら考えていた満生氏ですが、経営者の責任に気づき、成長へと方向性をチェンジします。

何のために仕事をするのか、真剣に自分に問い直す中で、会社を支えてくれる人の存在に改めて感謝の念が生まれ、真の経営へと舵がきられたのでした。

(P6へ続く)

埼玉の元気を創る中小企業家 - 90

【経営理念】

仕事を通じて「お客様」「社員」「お取引先」などご縁のある人および家族の幸せに貢献します。

「お客様の幸せ」：サービス業として仕事に取り組み、お客様の立場で物事を考え、言われる前に実行します。

「社員の幸せ」：人から感謝される仕事によって、自分自身の物心両面の豊かさを目指します。

「お取引先の幸せ」：健全な会社経営に取り組み、お取引先様と真の信頼関係を築き、共に発展できることを目指します。

2016-4 April
VOL.461 毎月1日発行

特集

第46回 中小企業問題全国研究集会 in 香川
人を生かす経営の実践で、地域の明るい未来を創りだそう
～21世紀型中小企業づくりで「すべての地域」に同友会理念を～

<http://www.saitama.doyu.jp>

社長の[®]
学校

特集 第46回 中小企業問題全国研究集会 in 香川

人を生かす経営の実践で、地域の明るい未来を創りだそう ～21世紀型中小企業づくりで「すべての地域」に同友会理念を～



2月18～19日、香川で「人を生かす経営の実践で、地域の明るい未来を創りだそう～21世紀型中小企業づくりで『すべての地域』に同友会理念を～」をテーマに第46回中小企業問題全国研究集会が開催され、全国から1,363名、埼玉より27名の参加がありました。

1日目は4会場に分かれて見学分科会を含む19分科会が行われました。「情勢・平和問題」から「人を生かす経営の実践」、「エネルギーシフト・企業連携」など多様なテーマで分科会が設定され、各分科会で熱いグループ討論が行われました。第7分科会では久賀きよ江代表理事が報告者を務め、自社の経営理念と人材育成を軸に新規事業を見出し、今後の自社事業の柱として育ちつつあることを力強く報告しました。

分科会終了後懇親会が行われ、最初にうどん県・香川を代表し手打ちうどんのデモンストレーションが披露されました。開催地を代表した明石光喜・香川同友会代表理事の歓迎あいさつの後、来賓が登壇し成瀬茂夫・四国経済産業局局長、浜田恵造・香川県知事が代表してあいさつしました。

2日目ははじめに鋤柄修・中同協会長が「これからは後継者問題。戦略的人事で若い人の育成に励んでほしい」とあいさつしました。そして高松市市長の大西秀人氏が来賓としてあいさつしました。その後6つの分科会の座長報告が行われ、それぞれの学びと実践へ向けた提起がありました。

記念講演は十河孝男・徳武産業(株)会長(香川同友会会員)が「足もとに笑顔を届ける会社～奇跡を起こしたピンクの靴～」をテーマに講演しました。徳武産業(株)は顧客



▲十河孝男・徳武産業(株)会長

の足の状態に合わせた多種多様な商品を展開し、歩くのが困難な方でも歩くことができる、その人の生きがいを取り戻す大切な道具としてケアシューズなどの製造・販売を行っています。十河氏の過去の苦労と顧客や地域に寄り添う経営姿勢、「損得」ではなく「善悪」を優先する経営の考え方は参加者に大きな感動を与えました。

広浜泰久・中同協幹事長が2日間のまとめを行い、次の開催地である鹿児島同友会にて再び集うことを約束し合って閉会しました。

～参加者の分科会報告記事をご紹介します～

第7分科会

業界の激動に直面し、どん底から脱却! ～隣接異業種による新規性5%戦略とは～

報告者:久賀きよ江

〈株〉メガネマーケット 代表取締役、埼玉同友会代表理事

「女性の感性を生かした経営が地域の信頼を得る」と語る久賀氏。2度の大きなピンチが自身と会社を変えるきっかけになったそうです。

1度目は、売上のわりに利益がないのは社員の使い込みが原因だとわかった時。氏はそういう環境をつくった自分の責任と捉え、社員一人ひとりともう一度向き合い、自分の思いを語り、皆が生き生きと仕事ができる会社を築いていったそうです。報告の中で、「自分の経営を語れない経営者は経営者ではない。理念の共有と浸透、新卒採用、銀行からの融資、全てが社長のプレゼン力で決まる」とありました。私も同友会の中でもっと真剣に学びや気付きを求め、思いを語る経営者に成長したいと思いました。

2度目のピンチは7年前。低価格のメガネブームが巻き起こり、コツコツ真面目にやってきた個人店がメディアに叩かれ、売上が半減した時。皆で自社の強みや戦略について話し合い、1年後には経営理念をみんなで変えるほど徹底的にやりあったそうです。



活路を開いたのは、隣接の異業種・新規性5%戦略。ヒントになったのは顧客の健康に寄り添い、毎日の快適な生活を提案したいという思いでした。これまで業界で補聴器と呼ばれているものは、実は集音器や拡声器の類のもので、人の声が聞き取れなかったり、余計な雑音を拾ったりと、高価なわりに毎日の快適な生活とは程遠いもの。そこで聴力を専門的に測定しオーダーメイドで本物の補聴器を提供することを決意。設備や専門職員等、投資費用もかかりましたが着実に顧客の心を掴み、現在では売り上げの15%を占めるまでに成長。90歳で余命数ヶ月の宣告をうけ、もう耳は治らないと医者に言われた方が来店された時のこと、補聴器を試してみると奥様の声が聞こえると本当に喜ばれていたそうです。目が見える。耳が聞こえる。そんな当たり前の様な事が人間にとっては一番大切に、一番幸せな事だと気付かされるエピソードでした。

「隣接とはお客様に喜んでもらう精神。今後は子育て支援や高齢化社会問題に寄り添うような隣接異業種の新規拡大に挑戦したい」という久賀氏の報告でした。

報告を通して一番感じたのは、人への思いでした。社員、お客様、地域への思い。経営のど真ん中にそれがあつた人は強いと思つた。後日、報告者の社員さんと話をする機会があり、「社長が本当に自分の事を思つてくれているのがわかるから本気になる」と語つてくれました。私も社員にそう言つてもらえるような強い人になりたいです。

(中部地区会 金子昭雄 記)



第9分科会

“どん底”から始まつた採用・共学・共育の企業づくり

～「社員は経営者の鏡」自己変革の鍵は素直な行動力～

報告者：杉本太一氏(特別養護老人ホーム 梅本の里 統括施設長、愛媛同友会 副代表理事)



杉本氏が施設を設立した1993年当時は、新卒採用もでき、業界としても順調な経営が続くという時代背景もあり、華やかなスタートであつたと語ります。しかし、一方では離職率も高く、2001年にはボイラー放火事故、2002年には不正請

求を隠蔽していた社員の発覚が重なり悪戦苦闘が続きます。

転機は2004年に入会した同友会の例会のグループ討論で指摘された「悪の根源はあなたの経営姿勢にある」との言葉。入会当初は自分が中心という考え方だつた杉本氏でしたが、参加するうちに「社員は社長と鏡の関係」「自分が変わらなければ何も始まらない」と同友会会員からの想いを受け、自分は今まで単に会社を“運営”しているだけで“経営”はしていなかつたことに気づきます。そこで改めて「社員が仕事に誇りを持つて働きやすい会社にしよう」との思いに至つたと語ります。

取組みの主な柱は、採用・共学・共育

2010年に経営指針セミナーを受講した杉本氏は、社員と共に経営指針をつくりたいとの考えから、幹部社員の思いや意見を反映しながら進めました。社内で共育委員会を立ち上げ、一方通行の伝達ではなく、互いに共有しながら双方向的な育ち合いへ、「学ばせたい研修」から「学びたい研修」に変化します。「何となく・決まりだから・昔から」という習慣から「座学2週間・実習2週間」というメリハリのあるものへと変わったそうです。また、利用者へのアンケートを実施することにより、新たな視点も生まれました。その人の頑張りを評価するとともに、地域への貢献度が高い人を評価できるようになりました。

求人に関しても、これまでは無計画に欠員が出たときに補充するというスタイルでしたが、2013年からは共同求人に参加して計画的に新卒を採用する方針へ、さらに障害者雇用に取り組んだことで、指導する側のスキルが向上する良い機会になったそうです。2005年にトライアル雇用から入社した障害者の女性が2012年に介護福祉士に合格したことで、他の社員のモチベーションが向上し、その後合格者が続きました。

デイサービス「小梅」を開業

こうした取組みを経て2012年、社員みんなの夢や想いから生まれた新しいコンセプトのデイサービス「小梅」を開業。社員自身の意識が変わつたことで、自分たちの施設であるという意識が芽生えたそうです。将来自分の子供が入社したい、地域の人々に期待される会社になりたいとの考えから、「様々な事業とコラボしながら個性を持った取組みをしたい」と杉本氏は語ります。

報告を聞いて、さて、リーダーはどうあるべきか。方向付けを明確化し、トップダウンではなく周囲の理解を得ながら進むことで、社員の意識が変わる。その為には、社員と同じ目線で考え、相談できる仲間がいることが何より大切であると感じました。(むさし野地区会 石井利典 記)



第15分科会

中小企業振興基本条例に故郷への思いをこめて、未来の子供たちに手渡す地域社会をつくろう

～同友会の三つ目の目的は、地方創生のカギとなる我々中小企業家の条例運動です!～



報告者:宇佐美健介氏、
静岡同友会理事
〈有エージェントうさみ〉

宇佐美健介氏は独立開業後に父親の経営する保険代理店と合併し、組織拡大に邁進しました。しかし、父親との経営方針の食い違いに衝突の絶えない日々が

続きます。そんな中、出会ったのが同友会。何気なく目にとまった黒いプレート。それが3つの目的でした。良い経営者とは何か? 経営理念作成の5年間は自分自身を見つける旅であったと宇佐美氏は熱く語ります。以前より、地域行事の参加等、地域の発展に積極的に取り組んできた宇佐美氏にとって、同友会の理念は『バイブル的存在』だったようです。事業継承後は、経営環境の変化の中、道しるべとなる経営理念に沿って組織を順調に伸ばし事業拡大します。

同友会の全国大会や勉強会で学ぶ中、人口の減少と経済の縮小、過疎化による市町村消滅の問題などに危機感を持ちます。そして『10年、20年先を見据え、未来の子どもたちが帰ってくる街づくりがしたい』と2013年、同友会富士宮支部の支部長就任と同時に年度活動方針で『中小企業振興条例の策定』を掲げ、支部役員10名で構成された委員会を新設しました。半年という短い期間で、地域の歴史を織り込んだ前文と、16条からなる条文を持つ条例案を策定し、富士宮市に提出。その後、何度も行政と意見交換を行い、2015年4月に『富士宮市中小企業振興基本条例』が施行されました。わずか1年半での制定というものすごいスピードです。条例制定のポイントは支部の大半が若いメンバーで構成され、その会員が早くから条例学習運動に参加していたこと。また、行政との強いつながりを持っていたこと。そして何より故郷を想う熱い気持ちが形となり活発な運動となったのでしょう。会に理念があるように、会社にも理念がある。そしてまさに地域の理念が今回施行された条例なのだと感じました。

今回の報告は、同友会の3つの目的の中に当てはめると『よい経営環境』の部分となります。経営者は主として自社の課題改善に焦点を置きがちになります。けれども、中小企業は、社内の経営環境を豊かにするために奮闘することは当然であり、それをとりまく環境の改善、すなわち地域との関わりを持ち、地域経済を支えていくという社会的役割があるということの実践事例が『富士宮市中小企業振興基本条例』であると感じました。

また、グループ討論では、地域の商工会議所、行政との関わりや、地域活性化についての意見交換が行われ、会員の中には『子どもに希望を与える』をテーマに、教育の場として職業体験のイベントを長年に亘り行っている企業もありました。職業ブースを出展し、ミニキッズニア展を開催している実践事例は、報告テーマでもある『子どもたちに手渡す地域社会』にもつながると感じ、興味深かったです。

東京のベッドタウンであるさいたま市の人口は約127万人。就業の場としても成長しています。地域環境の発展や改善は経済のことだけではありません。企業のもつ社会的な役割は様々で、その地域でできる社会貢献も様々です。今一度、当社にできることは何か、『もっと身近なところから』を『できることから』実践に移したいと思いました。

私たち、お客様、そして広くみんなが幸せになるよう努力していきたい。この一文は、当社の経営理念の一つでもあります。
(浦和地区会 持館秀一郎 記)



～参加者アンケートより～

- ・同友会をあげて国際化戦略に取り組む。ビジネスマッチングだけではなく、同友会づくりを海外でも。(第3分科会)
- ・女性の目線と感性が企業の基本にしっかり据えられ、お客様に寄り添う目線が素晴らしい。自社の個性や特性をどのように見つけ(気づき)展開するのもしっかり考えていきたい。(第7分科会)
- ・条例を通じ、行政との関わり・地域に対しての熱い思いを各会員から聞かせていただき大変勉強になりました。まず自分にできる地域との関わりを考えます。(第15分科会)
- ・あらためて地域との関わりが大切であることを認識できた。自社として地域のモデル・企業として社員やお客様・地域に貢献できる企業を真剣に実践していきたい。(第14分科会)
- ・「足元に笑顔を届ける会社」話を聞いている間も靴を購入したお客様の笑顔が浮かびました。人から感謝される・笑顔の見える仕事、私も同友会を通じてしっかり学習します。(記念講演)
- ・十河氏の話をお聞きしたのは3回目ですが、今回も新鮮な感動がありました。ただ改めて理由を考えると、自分自身が未だ成長できていない事の裏返しではないかと気づきました。一時の感動で終わらせてはいけません。(記念講演)

障がい者とともに ～実践経営者が語る障がい者雇用～

《シリーズ 第4回》



articles



今回、広報委員会が取材に向かったのは、(株)大宮鍍金工業。金属の錆や腐食を防ぐ亜鉛メッキ加工などを中心に、特に自動車部品を多く扱う製造業の会社です。創立以来70年という歴史を背負い、3代目として活躍する、代表取締役の出野哲也氏に障害者雇用についてお話を伺いました。

(株)大宮鍍金工業 代表取締役 出野哲也氏(大宮南地区会)
さいたま市北区日進町1-188 TEL:048-652-2121
業種:電気メッキ、亜鉛メッキ



障害者雇用は平成元年から、先代社長(現会長)の時から取り組んでいるそうです。先に障害者雇用に取り組んでいた同業者のアドバイスのもと、人手不足解消も視野に入れ、職場実習からスタートしました。

大きな機械を動かし、細かな技術を必要としながらも、長時間同じ作業を繰り返す工程箇所には、人員が定着することが難しいという事情からマッチングを試みたそうです。最初は覚える工程が多く、つきっきりの指導で苦労もありましたが、根気強く取り組む彼らの姿勢に、「任せてみよう」と、すんなりとその年から定期雇用が定着しました。

一緒に働く環境があたりまえ。むしろ戦力!

大宮鍍金工業の採用は、法定雇用率を満たすためや助成金を目当てにした「障害者雇用」ではなく、一般の求人と同じ「正規雇用」です。障害のあるなしに関わらず、大宮鍍金工業に入社した人たちが安定して長くやりがいを持って働いてもらいたいとの信念から「雇用計画」として取り組んでいます。

「忙しい時には残業もあります。残業時間は社内全員が一緒です。特に短くするとか、そういった特別な配慮はしていません。大宮鍍金工業では、みんな同じ管理のもとに働いています」と、

出野社長。「だから今回の障害者雇用についての取材も、何をどう答えたらいいのか。特別なことは本当に何もしていませんから」と淡々と答える姿がありました。

仕事を指導する社員たちの苦労などは?と、お聞きしたところ、「ラインの中では慌てさせない、うまくできたら誉める、話にはきちんと耳を傾ける、個々の特性に合わせて現場で対応する、「調子はどうだ?」と声をかける」などを挙げながら、「でもこういう事はすべての社員に対して当てはまる事ですよ。一緒に働く環境が当たり前になっていますのでむしろ戦力と思っています」と語る出野社長。

「苦労しているというよりも、むしろ頼りにしている」「彼らの根気とやる気をもって仕事に向かう姿勢を頼もしく思っている」という声が社内でも多く聞かれるそうです。自分の仕事に対し誇りをもっているからこそ、その姿に周りの人たちが逆に励まされ、自然とフォローし合う、会社の雰囲気はとても明るいということでした。



一人ひとりが主役～支えあう社内風土へ

彼らとの普段の会話も、仕事の話よりもプライベートな話題が多いらしく、そんな会話を通じて一人ひとりを受け入れ見守る会社全体の風土と、出野社長の自然体でいながらきめ細やかな対応が、彼らがのびのびと充実した毎日を送れる最大の理由なのではないかと感じました。出野社長の代になってからは、保護者との交流の機会も大切にしていて、「フェイスシート」の作成に取り組んだり、保護者の方を交えた面談など、新しい環境整備にも力を入れています。

「彼らの適正と弊社の仕事の内容が、たまたま合っていたんです」と控えめに語る出野社長ですが、それだけではないでしょう。それぞれが活躍できる“場”をつくり、互いに支えあう風土を会社全体で育てていく、これは出野社長が長い年月をかけて取り組んだ成果であり、かけがえのない人財育成につながったのではないかと思います。そしてここに、障害者の方々と共に働くことの意味があり、同友会会員として目指す、『人を生かす経営』につながっていくのではないかと、考えさせられました。

(東彩地区会 広報委員 後藤天美 記)



—— 埼玉の元気を創る 中小企業家 ——

(有)ぐっとリフォーム(中部地区会)

埼玉県さいたま市見沼区東大宮7-49-10
TEL:048-682-7811
http://www.good-reform.co.jp/



▲「幸せの循環が理念の基本」と語る満生氏

縮小か成長か

「何の準備もせず創業したため常に支払いに追われるという自転車操業が続いていました」と語る満生氏。創業10年目を迎える頃になると「会社を成長させる」よりも「縮小して楽になりたい」気持ちの方が強かったようです。

しかし一方では「これでいいのだろうか」と悶々とする中、社員から、子供が生まれるという報告を受け「現実からは逃げられない。縮小はできない」と成長路線に覚悟を決めました。

ちょうどその頃、リフォーム業界の経営勉強会を見つけました。業界で有名な(株)喜多ハウジングの喜多計世氏(石川同友会会員)が講師であることにも魅せられて参加。事業計画づくりに取り組むのですが、時間制約もあり完成には至りませんでした。

幸せの循環が理念の基本

同友会への入会は2010年。当初は、例会のみ参加しているような状況でした。喜多氏と親しくなったことで同友会でも経営指針の勉強ができることを知り、2013年に「経営指針づくりセミナー」に参加しました。

特に刺激になったのは「何の為に仕事をするのか?」と問われ「家族を養うためです」と答えた時に「それではダメ。だったら、この仕事でなくてもいいのでは?」との切り返し。

「会社を支えてくれているのは、お客様であり社員であり、協力業者の方達であるのを再認識できました」

そして、「お客様の幸せ」「社員の幸せ」「お取引先の幸せ」の循環が理念の基本となり、経営指針を成文化。新たなスタートとなりました。

理念の浸透

経営理念が社内で共有できるようになり「自分の価値観を伝えやすくなった」と満生氏は語ります。

「他より高いから断られた」「他の方が安いから持って行かれた」と金額勝負になりがちだった見積りにもその効果は表われています。見積りを担当する社員はお客様の立場に立って考えるようになりました。「お客様の希望額より高くなって

も、より価値ある機能や設備であることを説明し納得いただければ、お客様は満足され高評価を得られるのです」。

また、歩合給は無理矢理注文を取ってくる傾向もあり、それがクレームの要因にもなるため、給与体系を固定給に統一しました。その結果、クレーム産業と言われるリフォーム業界でありながら、クレームはほとんどゼロとなりました。



▲いきいきと働くスタッフ

既存客へのフォロー強化

クレームはなくなりましたが、悪徳リフォームでの被害が全国ニュースで流れた時期もあり、その影響からか、新規の注文は激減します。そこで、ターゲットを既存のお客様へとシフトチェンジ。新しい試みとして、不具合調査の選任スタッフを任命し、工事終了直後に直接お客様の元に伺い不具合はないかお尋ねするようになりました。このような体制づくりが功を奏しリピーターのお客様は着実に増えています。

さらに「地域密着」「ちょっとリフォーム」「断熱リフォーム」を三本柱に、自社の強みづくりもはじめました。「地域密着」は、地域で一番目立つリフォーム屋さんになることで、「東大宮ぐっと通信」という季刊のリフォーム情報チラシを配付、昨年のオフィス移転もその一環です。「ちょっとリフォーム」は、主に高齢者を対象に電球交換や荷物の移動、庭木の手入れなどやりにくい作業の代行。「断熱リフォーム」は、高度な知識と技術を備えてより付加価値の高いサービスの提供となります。

これからの課題は工事力の強化

これまで外注に依存していた施工ですが、工事部を設け現在は3名が在籍しています。今後はこの3名を軸に理念を共有できる職人さんを増やし、安定した工事体制を目指しています。同業者と連携した職人さん同士の交流会、職人になりたい人の育成等、まだまだ成長路線は広がって行きそうです。

「建設業であるよりサービス業であること」「お客様の立場に立って物事を考えること」「こちらから気付く努力を怠らないこと」をモットーに満生氏とスタッフの研鑽は続きます。

(中部地区会 広報委員 矢澤敦臣 記)



▲幹線道路沿いに位置する大きな看板が印象的な社屋

『社長タイムズ』4号間もなく誕生!



「同友会のよさを、外部にも発信したい!」そんな思いから、広報委員会では「DOYOUさいたま」とは異なる読者を対象に、対外広報紙の制作に取り組み始めました。

当時各地同友会でも対外広報への動きが活発となり、大阪同友会の「輝く大阪」や、兵庫同友会の「やるやん社長」等、対外広報紙に触発されて、埼玉同友会「社長タイムズ」発刊への産みの苦しみが始まったのです。

第4号誕生を目前に控え取材原稿の余白に埋もれたこれまでの道のりを記しておきたいと思ひます。

◀第1号では青年部、第2号ではファミ、第3号では共同求人委員会を特集。写真を多用し手にとりやすいビジュアル。



広報委員会はいつ もワイガヤ会議

広報委員の役割は、機関誌『DOYOUさいたま』の発行だけ。さらに、事務局員が記事のほとんどを書いて

いる、などと考えていませんか? 企業は事業を展開するために、「報せる」ことに力を注ぎます。チラシやホームページは言うまでもなく、メールマガジンやSNSなど様々な手段で、いかに自社を知ってもらうかは経営の根幹です。

同友会も全く同じです。広報では会内の情報を共有し、記録・保存し、日々の活動を充実させます。同時に、外へ向けて自分たちの「学び」を広く伝え、同友会への評価を高め、共に進む仲間を募ることも、重要な委員会の役割です。そのために、様々なことを雑談のようにテーブルに乗せて、ワイワイと意見を交わします。そこから、「特集記事」や「広報委員が行く」などが生まれています。

手探りで始めた広報紙創り

ある日の委員会で、「同友会を紹介しようと思っても、これと言った資料はありませんよね」と何気ない一言を發しました。賛同やら不安やらの意見のあと、「なかったら創ればいいじゃないか」という結論になりました。創る、と言っても何を? 参考にしたのは、他府県の同友会でした。そこで、対外広報紙の存在を全員が認識することになりました。

他同友会の広報紙や機関誌を並べ、記事は面白いが、デザインや印象はどうか。毎委員会では時間が足りず、持ち帰って考え、メールで意見を集約したこともあり。まさに手探りの仕事でした。タイトルは委員会全員から募集。大きさはタブロイド判で、4面構成。いわゆる同友会用語は避ける、というルールなど枠が決まり、いよいよ内容です。「タイムズ」を手にしてほしいのは? まず若い経営者。自分と等身大の経営者

がいることを見つけて欲しいと願っての企画でした。

さあ! 社長タイムズのミッションを果たすぞ

「面白い時代になってきた」で始まり、「さあ一緒に、もっと面白い時代を創ろうじゃないか」と結んだ、第1号の一面です。「青年部発進!」というタイトルと併せて、広報紙を発信するチャレンジの思いとワクワク感を込めました。

2013年の発行を皮切りに、第2号では女性経営者が事業に取り組む姿を紹介。第3号、第4号では「共同求人」「社員教育」という、経営者にとって大きな課題を取り上げました。共に学び共に育つための苦労や成果を、語っていただきました。

毎号、地区総会での配布を目指して発行しています。できるだけ「手渡し」を実践するためです。手にした会員さんが、まず手渡したい人はどなたでしょうか。仕事のパートナー、社員さん、お客様。その方々を想像することは、広報の醍醐味かもしれません。

しかしながら、対外広報は小さな一歩を踏み出したにすぎません。広報委員会の目指すところは、「報せる」というミッションを実行していくことです。今後は「タイムズ」活用のために東へ西へ走り、それが取材や記事作成にご協力下さった会員各位への謝意になればと思っております。

(社長タイムズ 編集委員長 池田恵津子 記)



▲結束を誇る広報委員会のメンバー

Let's Enjoy



みなさん、こんにちは! 川口地区会の平山防水企画(株)の高橋と申します。住宅のFRP防水をメインに、シロアリ工事やリフォーム工事を行っている会社です。皆さんの住まいのバルコニーは私たちが施工させて頂いたかもしれません。本社が千葉にあったため千葉同友会に入会しておりましたが、2014年埼玉県川口市に営業所を構えた事をきっかけに埼玉同友会に入会しました。今回「ほっと一息」に寄稿することになりました。題して「Let's Enjoy」です。

★Basketball

私は小学校5年の頃、地元の浦和でバスケットを始めました。キッカケは周りの友達が土日にバスケットの練習をしていて一緒に遊べなかったので、それなら自分もやろうという事で始めてから今日まで続けています。バスケットを通じて学んだ事は、集団生活、礼儀、感謝、楽しむ事、過去を見直す事、未来を描く事、仲間と心を通じ合わせる事。たくさんの事を学び今の自分の人格形成に大きく関わっていると感じます。



◀チーム NET'S
(出身大学の東洋大学工学部OBチーム)



▲2016年1月行田市総合体育大会準優勝(一番右が高橋氏)

川口地区会

平山防水企画株式会社

埼玉営業所 所長 高橋寿和

川口市芝下 2-17-6

TEL : 048-487-8046

FAX : 048-487-8047

★音楽

ずっとバスケしかしていない私ですが、ギターも趣味で、当時人気音楽デュオ“ゆず”などから入り、洋楽を聞くようになった頃にバンドを結成しました。バンドではベースを担当しており、中学校の卒業ライブや高校の学祭でもステージに立ちました。バスケの流れからHIPHOPに会い、ブラックカルチャーにどっぷりハマりました。みなさんが当時夜な夜な遊んでいた頃の80~90年の音楽も大好きです。

今更ですが、私は今年で31歳です。妻も音楽好きで、家ではカホンという打楽器を担当しています。私がギターを弾き、3歳の息子が唄うといった“家族バンド”もやっています。

音楽は面白いもので、大切な商談や考え事をしてる車の中など、その時の音楽でまるで自分がドラマのワンシーンを演じているような感覚になり、自分を客観的に見る事ができる瞬間があります。音楽は意識を様々な場所へ連れていってくれます。



▲15年前に買ったYAMAHAのギターとカホン

★スケートボード

つい3~4年前から始めたスケートボード。まったく上達しないのですが、息子と公園などでゆっくりクルージングしながら楽しんでます。オススメのスポットは荒川彩湖公園(通称カマキリ公園)です。私の実家の裏にある公園で、休みの日には県外からもたくさんの人で賑わっています。埼玉県は都心に近く、緑も多くとても素敵な場所です。ここで育って良かったなと感じています。

スケートボードは体の重心の位置がポイントで、自分の体のコンディションを感じる事ができます。そして、風をきって滑っていると、そのままどこにでも行けそうな気持ちになり、3年前に戸田から上尾まで20kmくらい土手沿いをスケートボードで旅をした事も良い思い出です。



▲子供の自転車と愛用のスケートボード

各地区会で開催された例会をご紹介します。

★退職者続出を機に再確認★

【浦和地区会1月例会】

地域に根差し、地域と共に歩むことで、人が育つ
～社員が会社を“我が家”のように思う企業づくり～

報告者：横山由紀子氏〈有福祉ネットワークさくら 代表取締役、戸田・蕨地区会〉



実践の横山と言われるほど、同友会運動と企業づくりに邁進していた横山社長。何かあった時救急車よりも早く駆けつけられる半径1.5キロの商圈で事業を展開。「さいたま市CSRチャレンジ認証企業」や「中小企業庁地域課題を解決する中小企業NPO法人100の取り組み」に選ばれるなど、順調に思われていた事業承継でしたが、先代の築いた功績

が大きい故に反動も大きかったのでしょうか、今期8人もの退職者を出す事態に遭遇します。

社長を継いで3年。黙ってついてきてくれた従業員を、実はよく見ていなかったことに気づかされました。社長の気づかないところで挨拶を無視するなどのいじめが横行。リーダー格の社員の配置転換を図るも、その場で辞意を表明させられる。辞めていった人員の穴をなんとか埋めようと自ら現場に入り改善に努めたものの、事業部ごとの諍いに発展し、ついには社内で1部門を閉鎖するか否かの状況に陥りました。このまま部門をたたんだ方がいいのか、従業員全員と言いたい放題の議論をした結果、長年通ってくれた利用者の方々をどうするのかとの話題に。高齢者は急に環境が変わることで体が弱り死につながることも共有し、そこで初めてネットワークさくらが地域に密着した施設であることを皆で確認しました。

職場の雰囲気が悪い中、新卒採用者も辞めていくのではと心配していたところ、「私は辞めません。まだまだ勉強したいことが沢山あります」との言葉に、新卒採用に取り組んで良かったと実感。また、退職従業員にも毎年年賀状を出していたことが功を奏したのか、過去に辞めざるをえなかった従業員も施設の危機を知った上で復職してくれました。ほとんどの従業員が通勤に自転車を通える距離であり、地域になくてはならない福祉ネットワークさくらの存在を改めて認識したとの事でした。ある従業員から「社長は以前は相談事はいつも同友会へ持ちかけていたけれど、今回は社員に真っ先に相談してくれましたね」と言われ、社員から教えてもらったと報告する横山社長。

毎日従業員が交代で更新する掲示板では近隣住民から感謝の手紙をもらう事もあり、小学生にも読めるよう漢字にルビを振るなど、常に地域と共に成長し、地域になくてはならない存在になっている施設運営の難しさとお切さを感じた報告でした。

グループ討論では各社地域とのつながりについて討論。業種業態の違いで取り組める内容も変わってきますが、地域の中に自社を位置付ける視点を共有した例会でした。（菅野孝治 記）

★いよいよ動き出したマイナンバー制度について★

【大宮東地区会1月例会】

マイナンバー始まりました! 解らない事ないですか?

報告者：沼田道孝氏〈㈱第一経営相談所 取締役〉



今回の例会では、動き出したマイナンバー制度について大宮東地区会員で税務署と関わりの深い、㈱第一経営相談所 沼田氏に報告をしていただきました。まだ

行政の方でも曖昧な対応のあるマイナンバー制度ですが、現段階で役所、企業、税理士などがどのように対応しているのか、また新聞等ではどのように取り上げられているのかを資料と共に説明をいただきました。個人番号カードや、マイナンバーの収集管理方法の実情など、企業として避けては通れないという事もあり、各事業者が事前に学んでいる中、改めてこの例会で「マイナンバー」という制度に触れる事となりました。

質問では平成29年1月から使用できる予定の「マイナポータル」について、何が出来てどのようなリスクがあるのか。またマイナンバーを顧客先へ渡す事になる土業の方から、他の方はどのように対応しているのか。変わった質問では、個人がオーナーになっている駐車場の管理者からマイナンバーが必要ななどの話があり、同友会らしい情報共有の場となりました。マイナンバーについてはセミナーなど、各会員で参加し情報を得ているとは思いますが、同友会という討論する場にテーマとして出すことで、また新しい見解が生まれるという発見があった例会でした。（柴田大智 記）

★毎年1月恒例! 指針セミナー報告例会です★

【中部地区会1月例会】

経営指針発表会!

～思いのつまった指針書をどのように実践するか～

報告者：武笠克弘氏〈ムカサ測量・登記事務所 代表〉

菊池孝一氏〈有木材工芸キクチ 専務取締役〉

高瀬利明氏〈㈱ライフコミュニケーション 代表取締役、大宮南地区会〉

金子房雄氏〈金子商事㈱ 代表取締役〉

池田豊子氏〈㈱ミヤマビジネス 代表取締役〉

毎年恒例となりました経営指針セミナー受講者の報告会。ここ数年、毎年数名ずつ受講が続いたので、会場にいる会員のほとんどが受講済み、受講が当たり前というような、“学ぶ中部地区会”を象徴する報告会となりました。

「走りながら考え、即実践して結果が出た」「見えなかったことが見えた」「社員と共有するために皆で考え作ったので浸透しやすい」「理念に掲げた言葉通りに行動しているか、社員同士で確認し合える」と言ったように、すでに受講の成果があったようです。

作成しただけで終わらせず、実践することが大切な経営指針。昨年受講者の1年間の実践状況も併せて報告いただきました。未来を見据えた着実な実践、一歩ずつだが確実に前進しているという報告に、参加者は自分自身の実践の状況を見直すきっかけとなりました。

グループ発表の恒例となっている来年の指針受講宣言が今回も飛び出し、更にゲスト参加者がその場で入会宣言するなど、幸先の良い例会となりました。

(鈴木将浩 記)



埼玉中小企業家同友会 2015年度 第6回理事会議事録 《2016年度スローガン》「人を生かす経営」の総合実践

◆日時:2016年2月25日(木) 18:30 ~ 20:45

◆会場:新都心ビジネス交流プラザ4F

◆司会・議長:柴田副代表理事

◆議事録署名者:高橋副代表理事

◆議事録作成者:小池事務局長

1. 議事(審議事項・報告承認事項・連絡事項)

・久賀代表理事挨拶
この間、開催された香川全研、合同例会、新入会員オリエンテーション、社長の学校活用実践セミナー、いずれも同友会の魅力を力強く発信するものであった。各地区においても引き続き同友会の学びと実践を伝える充実した例会づくりと仲間づくりをお願いしたい。

協議事項

1. 埼玉県よろず支援拠点との連携について
(提案者:久賀代表理事、柴田副代表理事)
理事会冒頭に関東経済産業局村瀬一世係長、埼玉県よろず支援拠点野口満コーディネーターより概要と同友会会員の活用事例について報告頂いた。埼玉県よろず支援拠点より各地区例会に積極的に参加頂いている。相談は無料、回数も制限が無いので例会の場にて自社の課題をどんどんぶつけて活用して頂きたい。
・経営相談のワンストップ窓口として活用しており、何か困ったことがあると、まずはよろず支援拠点に電話している。／助成金等の情報はとても有用で同友会に参加することで、各種施策について情報を得られることは大きな魅力になる。活用事例を会員間で交流する機会も設けたいとの意見があった。パッケージデザインの相談をきっかけに関連する助成金活用のアドバイスにつながるなど、総合的に支援してもらっている。等の意見があった。

2. 第43回定時総会についての検討

・設営・記念講演について(提案者:小林聡一西部地区会長、小池事務局長)
記念講演は、㈱八木澤商店 代表取締役の河野通洋氏。参加目標は各地区会員数の30%。3月幹事会よりチケット配付予定。設営を担当する西部地区では準備体制も整えてお迎えしたい。

・2015年度活動総括・2016年度活動方針案について

(提案者:柴田副代表理事)
活動方針(案)を中心に意見交換を行なった。主な意見は以下の通り。
・例会づくりではグループ討論テーマが重要。地区幹事会にてグループ討論のテーマ設定についてしっかり議論することを盛り込みたい。
・メンタルヘルスケアについて意見交換を行なった。就業規則の整備、見直しとともに、義務化の対象ではない50名以下の事業所でもストレスチェック推進に取り組むべきではないか。
・空白地域という表現は、ネガティブな印象があり別の言葉に置き換えられないか。
・「埼玉同友会大学」について、議案の表現では対象や立ち上げの意図が伝わらないのではないか。学べる場が増えるのはいいことでもあるが、活動過多の懸念もある。／「開講します」という表現は時期尚早に感じる。準備期間を設けしっかり検討してからでも良いのではないかと。
・事務局の「育成」は別の表現が良いのではないかと。／事務局主催で会員、ゲストに同友会の魅力を伝える魅力ある例会を企画して欲しい。
・女性の活躍推進についても議案に盛り込んではどうか。2018女全交に向けた実行委員会の立ち上げについても方針化したい。
その他、意見があれば事務局に寄せて頂きたい。

・2016年度組織図について(提案者:久賀代表理事)

労働労務部会は廃止し、経営労働委員会の活動に一本化。組織強化支援室(会員拡大PTと新地区支援PT)を新設する。

・2016年度予算案の検討(提案者:小池事務局長)

2016年度予算案の提案があった。会費収入は会員数980名で手堅く予算組み。3月理事会にて最終審議。

・2016年度活動スケジュールについて(提案者:高橋副代表理事)

2016年度活動日程について提案。全国三大行事、女全交(旭川)、中同協役員研修(埼玉設営)に多くの参加呼びかけをお願いするとともに日程が重ならないように配慮をお願いしたい。

報告事項

1. 経過報告

①新入会員オリエンテーション(報告者:柴田副代表理事)

2/24に新入会員オリエンテーションを開催し10名の参加となった。

②社長の学校活用実践セミナー(報告者:高橋副代表理事)

2/24に第3講「ファミと障害者雇用推進委員会の取り組み」を開催。38名の参加となった。閉講式を併せて開催。当日受講生より3名が経営指針づくりセミナーに参加表明があった。来年度以降も是非開催して欲しいとの意見があった。

③2/12地区会長会議(報告者:鈴木副代表理事)

各地区会の活動総括、県議案についての検討、今年度地区会長会議の総括を行なった。また同日、地区会長の挨拶スピーチ研修を開催した。

2. 5/26~27中同協役員研修会の設営について(報告者:沼田副代表理事)

5/26~27中同協の役員研修会をソニックで開催。報告者は鋤柄会長、広浜幹事長、吉谷顧問。貴重な機会なので理事、地区会幹事は多くの参加をお願いしたい。

3. 政策問題プロジェクト報告(報告者:沼田副代表理事)

会内景況調査アンケートを実施予定。3月例会と4月幹事会にて配付する。憲章条例学習会は6/28にさいたま市CSR認証制度をテーマに実施予定。大宮3地区、浦和地区会に是非協力をお願いしたい。埼玉版同友会大学の企画について議論を進めている。

4. 会員拡大プロジェクト報告(報告者:荷田プロジェクトリーダー)

2015年度も残りわずか。各地区では期首の会員数まで3月までに戻して頂いて1000名必達を目指していきたい。

5. 委員会・地区会報告

・2016経営指針づくりセミナーの案内… 30名定員で19名が申込済み。全地区からの参加に向けて未参加地区会は積極的に声かけをお願いしたい。
・共同求人委員会…大東文化大学よりキャリア特殊講義の協力依頼あり。学生が企業への若手社員にインタビューを行なうというもの。40社の依頼があり、共同求人委員会が中心に対応するが、理事の皆様にも協力をお願いしたい。
・ファミ… 2/23女性部連絡会報告。今後、女全交に向けて準備委員会、実行委員会立ち上げ予定。
・社員教育委員会…4/4合同入社式、4/4~5新入社員研修会の案内
・青年部…3/4青年部例会、4/16関東甲信越青年経営者フォーラムの案内

新たな辞書の1ページ 新入会員紹介 (1/1~2/1)



伊藤 健
(有)昇栄興業
東彩地区会
建物の軸となる鉄筋コンクリート造の鉄筋加工・組立



岡田富洋
岡田産業(株)
東部地区会
土木工事、舗装工事、外構工事



角屋博文
あん整骨院
浦和地区会
整骨院、鍼灸、マッサージ



斎藤順子
(有)ニーズ食品
中部地区会
レトルトカレーのOCM製造



出町拓也
株式会社魚鮮水産 越谷東口店
東部地区会
パン屋、モスバーガー、王将、チムニーの居酒屋のFC店舗



松原律子
(有)スマイルサービス
北部地区会
通所介護、サービス付高齢者向け住宅、居宅介護支援、訪問介護、福祉タクシー他



竹堂佳紀
株式会社クレス
大宮南地区会
印刷、デザイン、ファンシー文具デザイン販売



津和野真佐子
株式会社リナティス
浦和地区会
外国人技能実習生の受入、通訳業(インドネシア語)



米山 剛
株式会社米山メジャメント
東部地区会
測量、建設コンサル



本間吉勝
(有)本間エステートソリューション
むさし野地区会
土地・建物・人のあらゆる問題解決



水上真紀
株式会社ノワテック
中部地区会
自動制御設備、電気設備の設計・施工・調整・保守点検事業



米村寿史
株式会社計画設計
戸田・蕨地区会
土木設計コンサルタント

● 会員information

《住所変更》

大宮中央地区会 (株)セシオ 山本等会員
〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町
1-10-17 シーノ大宮サウスウイング 18F
さくら地区会 加藤司法書士事務所 加藤正幸会員
〒360-0813 熊谷市円光 1-5-7

《社名変更》

むさし野地区会 (株)埼玉住宅総合互助会 日高かなえ会員
かなえハウス(株)へ

《役職変更》

大宮南地区会 (有)ペイントサインマツモト 松本健一会員
代表取締役社長へ

《住所・TEL・FAX 変更》

大宮南地区会 (有)ソルマール 大森幹夫会員
〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色 2147-3
TEL : 046-875-6522
FAX : 046-875-6522
埼葛地区会 小見野社会保険労務士事務所
小見野正夫会員
〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮 5-36-5
川口ビル 301
TEL : 048-796-4501
FAX : 048-796-4502

◆ 訃報 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

中部地区会 吉野幸治会員のご尊父が逝去されました。
北部地区会 佐藤真人会員のご尊父が逝去されました。

会員数

2016年3月7日現在

地区会名	会員数	地区会名	会員数	地区会名	会員数
川 口	47	大 宮 南	86	埼 葛	64
戸 田・蕨	54	西 部	48	北 部	39
浦 和	84	むさし野	77	さくら	82
大 宮 東	42	東 部	143	川 越	92
大宮中央	44	中 部	57	東 彩	35
計					994

編集後記

広報委員を拝命して4年が経過しました。後半の2年は2人体制になり、お任せすることが多くなったため、すっかり不良委員に。そんな不良でも温かく受け入れてくれるのが広報委員会。たまには記事をと言うことで編集後記を担当です。偶然にも3年前に私が裏面「人」の記事を書いた満生さんが表紙。この3年で指針セミナー受講、社員増加、事務所移転、そして裏面から表紙へと、大きく成長された一人です。指針セミナーを受講したことで「経営の目的」がはっきりし、社員さんがより働きやすい環境があると感じました。これも広報委員として2度取材をしたから感じられることですね。
(中部地区会 広報委員 鈴木将浩 記)

● 同友会日誌 2月1日~29日

- 1日(月) 東彩幹事会
- 2日(火) 川越幹事会、川口幹事会、大宮南幹事会、北部幹事会
- 3日(水) むさし野幹事会、埼葛幹事会、中部幹事会、浦和幹事会
- 4日(木) 合同企業説明会、東部幹事会、西部幹事会、戸田・蕨幹事会
- 5日(金) 正副代表理事会議
- 8日(月) さくら幹事会
- 9日(火) 政策問題プロジェクト会議、大宮東幹事会、大宮中央幹事会
- 10日(水) リーダー研修会【社員教育委員会】、議案作成プロジェクト会議、経営労働委員会、広報委員会
- 12日(金) 地区会長会議
- 15日(月) 障害者雇用推進委員会、さくら例会、東彩例会、ファミミーティング
- 16日(火) 北部・伊勢崎支部合同例会(群馬同友会)、川越例会、川口例会
- 17日(水) むさし野臨時総会、戸田・蕨例会、東部例会、浦和例会、西部例会、むさし野例会
- 22日(月) 青年部ミーティング
- 23日(火) 中部・埼葛合同例会、大宮ブロック合同例会
- 24日(水) 新入会員オリエンテーション、『社長の学校』活用・実践セミナー第3講
- 25日(木) 理事会
- 26日(金) 仕事づくりセミナー

『人』との出会いが大好き!

中目英敏氏が代表を務める「ナカメ」は、先代のお父様が福島県から上京し、サラリーマン生活を経て起業した保険代理店です。長男である中目氏が二代目を引き継ぎ、仕事は現在も現役のお父様と奥様の3名で営業し、今に至っています。



▲「人のためになる営業をしたい」と語る中目氏

人のためになる「営業職」を目指して転職

大学を卒業して就職したのは都内の自動発券機のメーカーで、営業部に配属された中目氏は、社内でも大口の企業を担当する事となりました。東京で4年、名古屋で3年間勤務し、その期間に会社は上場。経営的には順調であったものの、新技術の商品に関する営業上の言い訳めいたセールストークを必要とする営業活動に次第に疑問を持つようになり、「誠心誠意で人のためになる営業」をしたいとの思いからお父様の経営する会社に転職したそうです。人との出会いに感謝しつつ、保険代理店の仕事を通して社会貢献ができる営業活動に取り組んでいるとの事です。



▲若い頃オーストラリアへ一人旅

人との出会いが趣味!?

サラリーマン時代に「旅をするなら一人旅が絶対に楽しい!」という先輩に感化され、アメリカ等に数回、転職前の心のリセット時にはニュージーランド～オーストラリアへと予定も宿泊先も決めない自由気ままな一人旅に挑戦します。不安を乗り越えて渡航後体験した異国への旅は、机上でしか知らなかった事を直に体感する楽しく素晴らしいものでした。自分で考えて行動を起こして目的地まで辿り着く旅は、ツアーと違い苦労も多いけれど、訪れる先々で出会う人々との様々なコミュニケーションは抜群に楽しく、ある時は旅の情報を交換し、ある時は料理を分け合い一緒に食事をし、ある時には3リッターの紙パックのワインを酌み

交わして朝まで語り合う。決して語学が堪能なわけではないけれど、同じ場所に偶然居合わせた初対面の人と情報交換をする事は新鮮で大変興味深い体験で、それ以後も人との出会いと縁を大切にしているそうです。

「人との出会い」から地元消防団に所属し分団長を務めている中目氏は、火災発生時は現場に駆けつけ消火活動や現場収拾への手伝いをしたり、空気の乾燥する時期には夜回りに参加して防火を呼びかける地域貢献にも積極的に取り組んでいると語ります。活動後の仲間同士での情報交換を兼ねた懇親会にも積極的に参加しているとの事です。



▲地元消防団の分団長として活躍

今後の展望は海外に移住

3年前に同友会の経営指針セミナーを修了して、成文化した指針に添って経営に取り組んできましたが、他の

業界と同様に保険業界も仕組みが変わり、予定していた計画は変更せざるを得ず、現在は新たな方向を模索しているとの事です。

老後は奥様と海外の温暖な地域に永住をしたいと語る中目氏ですが、しかし奥様の「その話は聞いていない」との発言に、「指針の共有」はまだまだ浸透していないようでした(笑)。

取材時には奥様と小学校1年生の娘さんに美味しいお茶をご馳走になり、とても時間が短く感じる楽しい時間でした。

(大宮中央地区会 広報委員 鈴木光義 記)



中目 英敏

なかめ ひでとし

大宮中央地区会

ナカメ

埼玉県上尾市原市4371-7

TEL:048-722-1271

<https://my.ms-ins.com/page/?x=0000328148>埼玉同友会
広報委員●委員長●
鈴木 光義●副委員長●
酒井 啓
小林 吉文●委員●
川口 米山正樹
高橋寿和
辻 繁幸
戸田 藤 浦 和
安藤洋泰大宮東 ●安形智昭
柴田大智大宮南 ●近藤登志夫
加藤早苗
松野真治西 部 ●吉野雅一
菅沼 剛
むし野 福山行雄
高橋昌弘東 部 ●鈴木一朗
宇野町子中 部 ●鈴木将浩
矢澤敦臣埼 葛 ●大塚 治
今村達郎
北 部 ●東 禎章
さくら 池田恵津子霜田政春
川 越 國分洋祐
東 彩 後藤天美●制作担当●
伊达 博久●印刷・製本●
加藤 早苗
●事務局●
古川 佳子